

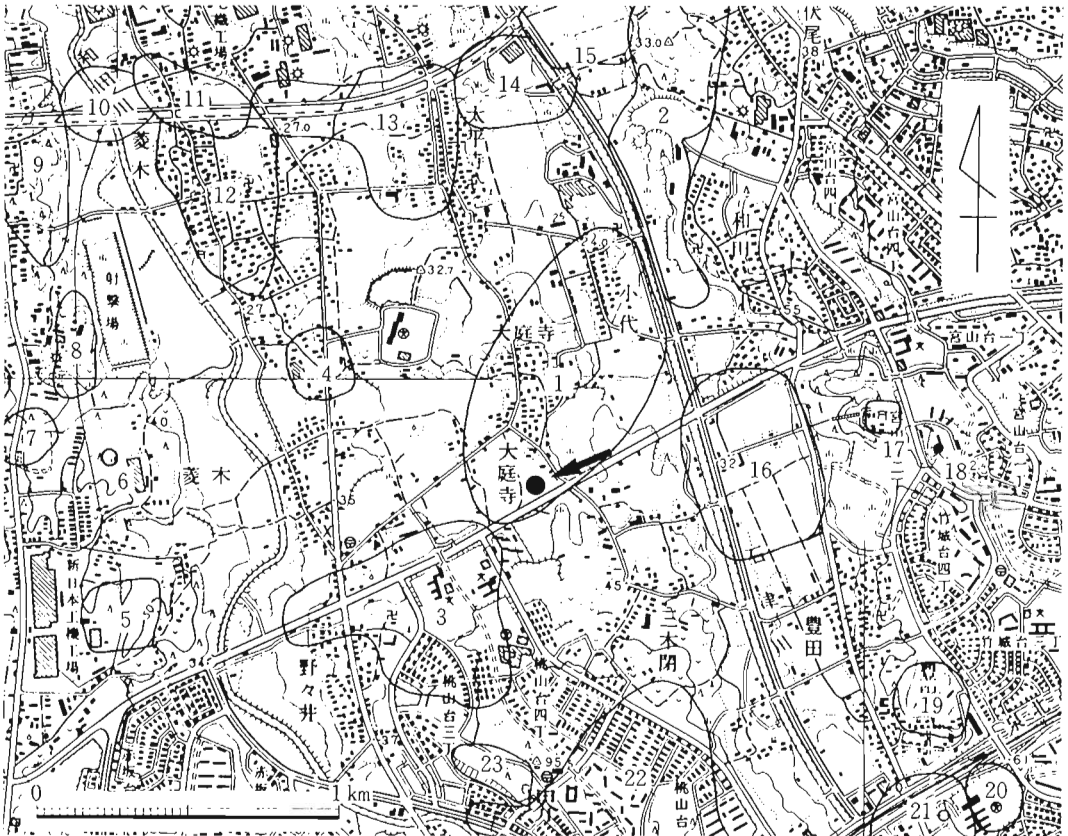
大庭寺遺跡現地説明会資料

1990年3月3日

大阪府教育委員会

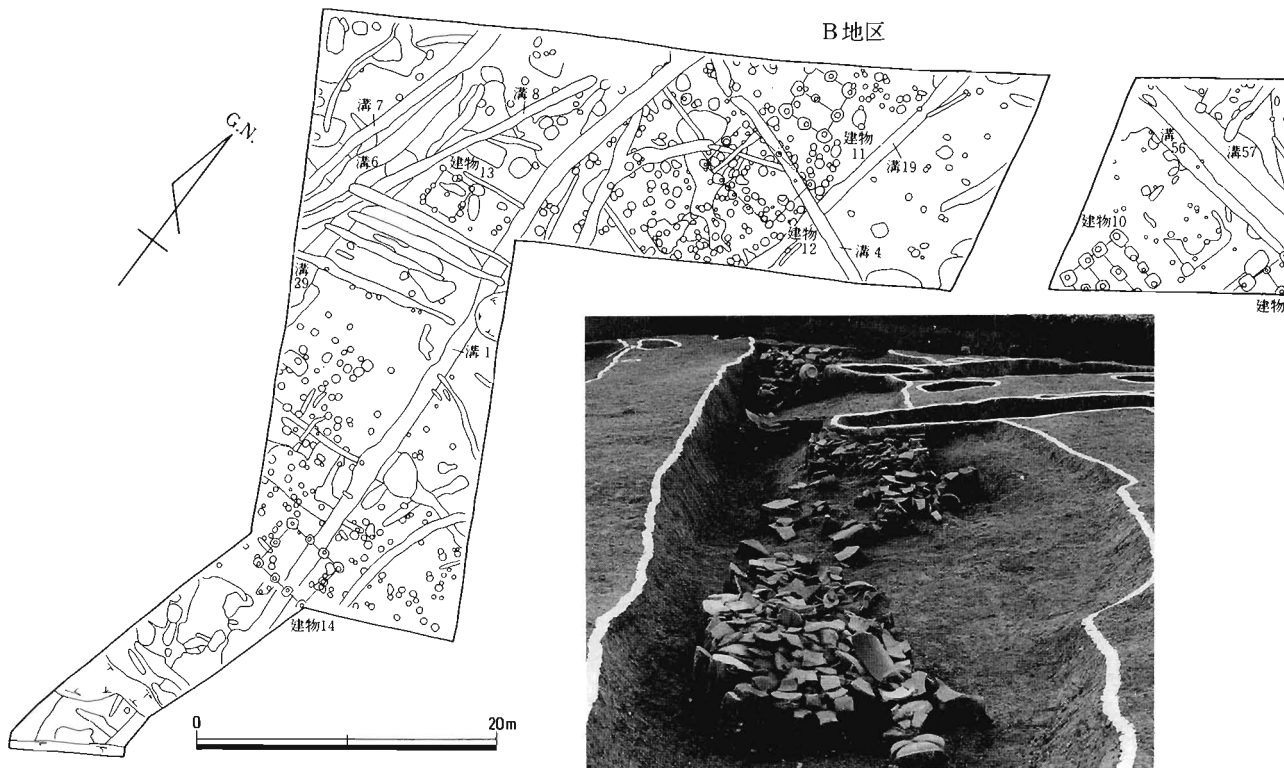
財団法人 大阪文化財センター

大阪府教育委員会と(財)大阪文化財センターは、近畿自動車道松原～海南線（和歌山線）建設に伴う^{おぼてら}堺市大庭寺遺跡の調査を平成元年12月より実施してきました。大庭寺遺跡付近の高速道路は、騒音軽減などの配慮から、掘割化されることになっております。今回の調査は、そのために切断される地下水脈を連通管により通水させる実験に先立って実施されたものです。



1. 大庭寺遺跡
2. 伏尾遺跡
3. 野々井遺跡
4. 菱木上遺跡
5. 狐池南遺跡
6. 昭和池遺跡
7. 山田遺跡
8. 山田北遺跡
9. 鶴田池東遺跡
10. 西浦橋遺跡
11. 菱木下遺跡
12. 菱木遺跡
13. 万崎池遺跡
14. 太平寺遺跡
15. 小阪遺跡
16. 深田橋遺跡
17. 多治速比売神社本殿
18. TK73竈跡
19. 小谷城跡
20. 東山城遺跡
21. 豊田遺跡
22. 牛石古墳群
23. 野々井南遺跡

周辺の遺跡

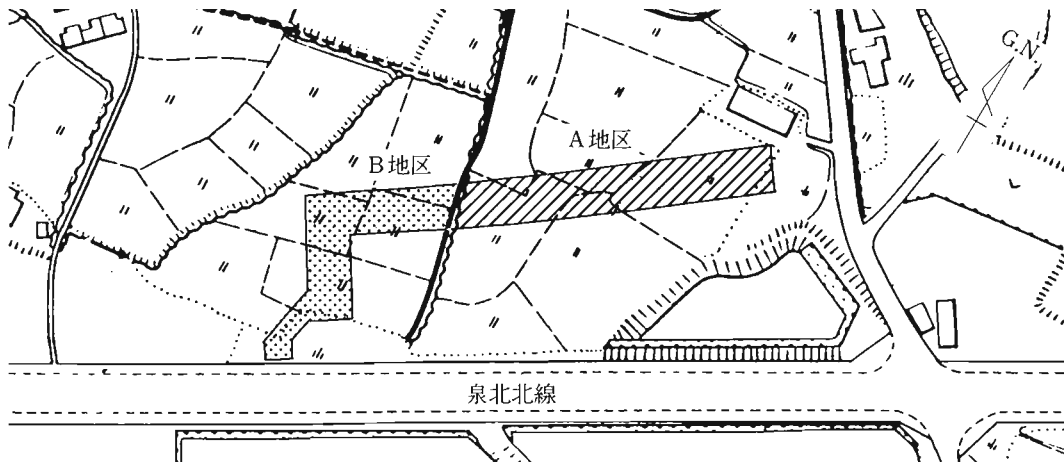
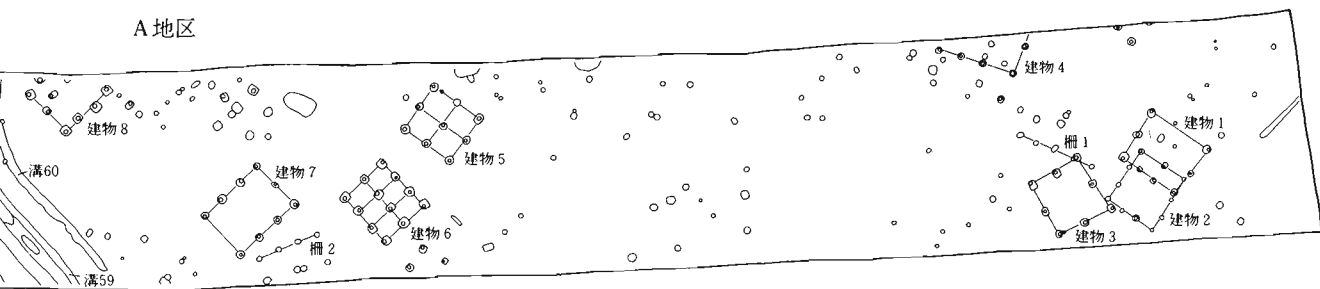


調査区全体図

A地区溝57の数多くの土器

大庭寺遺跡の周辺にある遺跡をみてゆきたいと思います。調査地の周りにある遺跡の様子は、最近の発掘調査でだんだんと明らかになっています。古い時代から順番に述べると、旧石器時代では、野々井遺跡や小阪遺跡などから石器が見つっています。つづく縄紋時代では、小阪遺跡、西浦橋遺跡、太平寺遺跡などから土器や石器が見つかり、小阪遺跡では、数千年もの長い間にわたる各時期の道具が見つっています。このような遺跡は大阪府でも数が少なく、非常に珍しいものです。そして、お米を作り始めた弥生時代では、小阪遺跡、菱木下遺跡、野々井遺跡などから当時の家やお墓、生活道具などが発掘調査で見つっています。小阪遺跡では弥生時代の初めの壺や甕が見つかり、泉州地方の中でも最も早く米づくりを始めた人々の一部が住んでいたと思われる。また、菱木からは、泉州では一番大きな銅鐸が見つっています。堺に巨大な古墳が造られた古墳時代になると、泉北丘陵一帯では、灰色をした須恵器と呼ばれる硬い焼き方をした土器がたくさん作られ始めました。小阪遺跡では須恵器を作り始めた頃の家や井戸が見つかり、今の桃山台や新松尾台にも、もとはたくさんの古墳がありました。

奈良の大仏を造るのに努力したこの地方出身の僧、行基が活躍した頃の遺跡として大庭寺遺跡があげられます。これまでの発掘調査で、建物や井戸が見つかり、その中には今回見つかった普通の家には見られない大きな柱を使った倉庫が立てられていました。平安・鎌倉時代では、付近が現在見られるような田畑とされ、大庭寺遺跡では鎌倉時代の建物跡が見つっています。



調査区配置図

今回の調査では14棟の建物と溝、土坑（ごみ穴）、無数の柱穴、多量の須恵器が見つかりました。

14棟の建物のうち、建物5、6、10、11は倉庫と考えられ、中でも建物10は一辺1m、深さ60cmの穴を掘り、そこに直径30cmの柱を据える大きな建物です。建物6の柱穴の底には柱が沈まないように石が置いてありました。いずれの建物も向きを方位の軸にあわせて建てています。たくさんの溝も、方位と同じ方向に走っています。溝1は幅1m、深さ50cm、長さ50m以上あります。これらの溝は内と外の区画を表したものでしょう。溝19、57には多量の須恵器

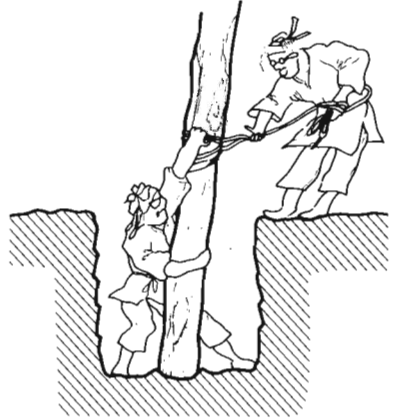
建物	桁行 × 梁間	柱間の間隔 (m)		面積 (㎡)
		桁行	梁間	
建物1	3 × 2	1.3	1.8	15.5 [4.7坪]
建物2	3 × 3	1.3	1.3	13.7 [4.1坪]
建物3	2 × 2	2.0	1.9	15.2 [4.6坪]
建物4	≥ 3 × ≥ 1	1.7	2.0	≥ 10.2 [≥ 3.1坪]
建物5	2 × 2	1.8	1.7	12.2 [3.7坪]
建物6	3 × 2	1.8	1.7	14.0 [4.2坪]
建物7	3 × 2	1.7	1.7	16.5 [5.0坪]
建物8	≥ 3 × ≥ 2	1.3	1.8	≥ 14.0 [≥ 4.2坪]
建物9	≥ 2 × ≥ 1	1.7	2.0	≥ 6.8 [≥ 2.1坪]
建物10	≥ 3 × ≥ 3	1.4	1.5	≥ 17.2 [≥ 5.2坪]
建物11	2 × 2	1.6	1.5	9.9 [3.0坪]
建物12	4 × 2	1.4	1.6	22.4 [6.8坪]
建物13	2 × 2	1.2	1.2	6.3 [1.9坪]
建物14	3 × 2	1.4	1.7	15.1 [4.6坪]

検出された建物の規模

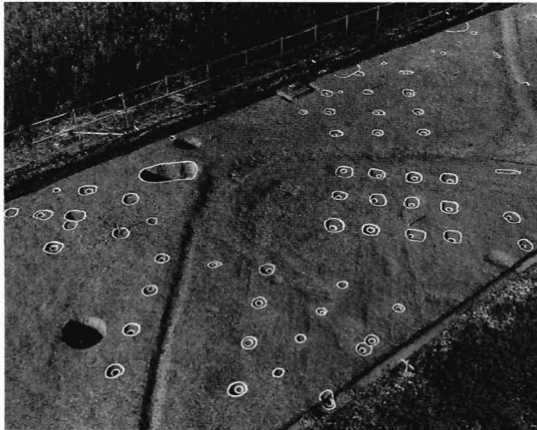
が入っていました。皿、蓋、壺、甕の他に飯蛸壺、埴(レンガ)、滑石の模造品がみられました。また、須恵器を作る時に使う「当て具」が出ています。きのこ状の形をしており、笠の部分のみが残っています。堺市日置荘遺跡からは木製の当て具が出ていますが、大庭寺遺跡のものは笠の部分が直径5cmと非常に小さい陶製のものです。他に甗と呼ばれる土器のミニチュアがあります。これらの出土遺物から7世紀前半と8世紀に生活が営まれた集落であることがわかりました。

今回の発掘調査で明らかになったことをまとめてみたいと思います。第1に飛鳥時代の建物跡や溝が見つかったことがあげられます。建物は、四角く囲まれた溝の中にほぼ北を向いて計画的に建てられているようです。溝の中には不良品を含む大量の須恵器が埋もれており、飯蛸壺や古代の古墳やお寺に使われた埴、陶製の当て具が含まれていました。これら、普通の生活道具以外の特異な製品が含まれていることから、須恵器の生産や流通に関係した人々の住居の可能性もあります。

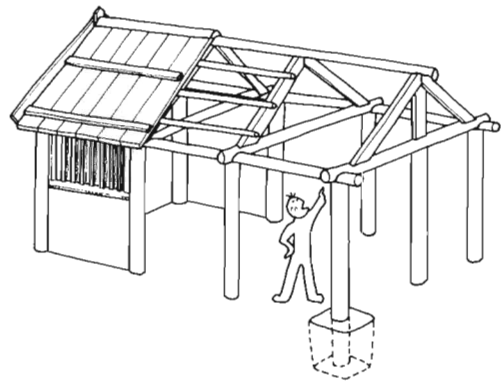
第2に奈良時代では、規模の大きな建物が見つかったことです。付近の地名は大庭寺と呼ばれていますが、これは『新撰姓氏録』に記された大庭造とよばれる有力者たちや、平安時代後期の『行基年譜』の中にみえる大庭院というお寺に由来するものと思われます。これらの建物群は、今回泉州地域ではずば抜けて大きな柱を使った倉庫が見つかったことや、これまでの調査成果から、大庭院を立てるのに協力したとされる大庭造の力の大きさを示しているのかも知れません。



古代の柱の立て方

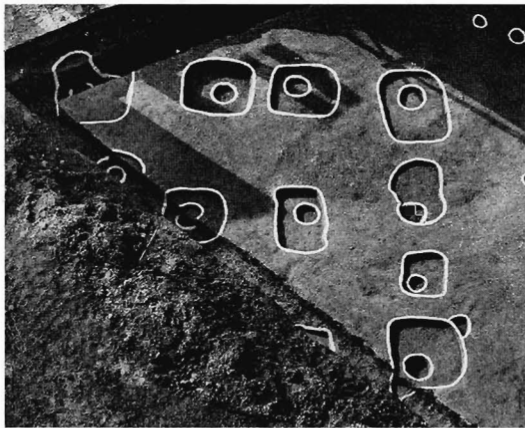


A地区建物群

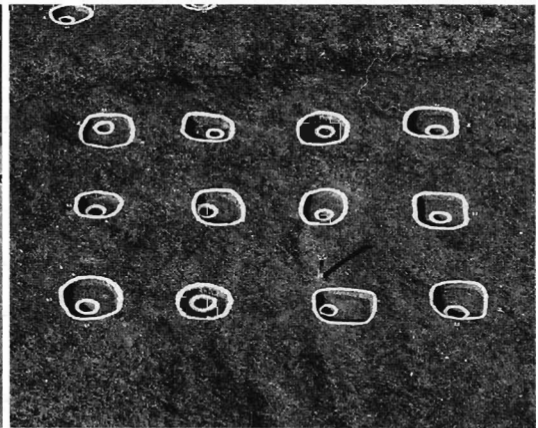


掘立柱建物の模式図

(『平安京—古代の都市計画と建築』を参考)



建物 10



建物 6